

# まゆらげ

105号  
No.1105

2014(平成26)年  
4月1日

人生の目的  
ふたつあったら  
まようよう  
ひとつなら  
まようようが  
ない  
人生の目的は  
ひとつがいい  
みつを

相田みつを美術館  
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666

FAX(072)692-0769

春季 ほのぼの法話

# ほとけさまのお心を 家庭に

ある新聞の欄に、いつか、次の  
ようなことを書きました。

「おとなりの赤ちゃん誕生  
祝いに、紅白のおまんじゅうが  
配くばられました。あなたの家では  
この紅白のおまんじゅうを、ど  
うされるでしょうか」と、問題  
を投げかけました。しかし、原  
稿用紙にそう書いたからといっ  
て、原稿用紙がすぐ返事を返  
してくれるものではありません。  
自問自答するしかありませ  
ん。そこで私が答えることにし  
ました。

**Aさん**のお家は、仏さまの教  
えを大切にされるお家ですし、

お年寄りを大切にされるとい

う評判のお家です。まず、仏さ  
まにお供えしてから、白いのはお  
じいちゃんに、赤いのはおばあ  
ちゃんに、ということになりそ  
うです。もちろん、おじいちゃ  
ん、おばあちゃんは、それを、お  
孫さんに分けてあげられる、と  
いうことになるだろうとは思  
いますが…。

**Bさん**のお家は、「子どもこ  
そ家の宝」と考えておられるお  
家です。数年前新築された新  
しい家においても、一番日当り  
のいい明るい部屋を子ども部屋  
にされているほどです。だから、

きつと、白いののは太郎君、赤いの  
は花子ちゃん…ということにな  
りそうです。

**Cさん**のお家のご主人と奥  
さんは恋愛で結ばれた方で、夫  
婦の存在を最優先にされている  
お家です。

「おじいちゃん、おばあちゃん  
も寝室に入っていかれたよう  
だ、子どもたちも寝たようだ…  
それでは…」ということになり、  
白いのはご主人、赤いのは奥さ  
ん、二人でお茶を飲みながら…  
となりそうです。

**Dさん**のお家のご夫妻は国で  
も、社会でも、弱い存在ほど大  
切にするべきだ、と主張されてい  
る方です。ですから、家庭でも、  
白いのは二等分しておじいちゃ  
んとおばあちゃんに、赤い方も二  
等分して、太郎君と花子ちゃん  
に…ということになるでしょう。



1月10日 仏教婦人会 御正忌報恩講参拝



12月31日 萬徳寺除夜会  
300名を越える参拝者の方々と一緒に  
心静かに新年をお迎えしました。

**Eさん**のお家は、人間はすべて平等である。誰かの犠牲やがまんの上に成り立っていくような世の中であってはならない。政治も、そういう平等社会を実現するためのものにならないればならないと主張されているお家です。白いのも三等分、赤いのも三等分、みんなひときれずつ、みんな顔を合わせて、お話しあいなさりながら…ということになるでしょう。

**Fさん**のお家では、仏さまのお心を家庭経営にも…と念願されているお家です。そして、お太郎ちゃん、お隣からいただいたおまんじゅうが、仏さまにお供えしてあるからね、あれをお下げして、おじいちゃん、おばあ

※東井義雄先生の短編集「どの木もどの草も輝きながら伸びていく」から頂戴しました。

ちゃんにも集まっていたいて、みんなに分けてあげてちょうだい」ということになるでしょう。

それで、太郎ちゃん、花子ちゃんがおじいちゃんもおばあちゃんもお呼びし、仕事の忙しそうなお父さんもお呼びし、太郎君、花子ちゃんの手で二つのおまんじゅうを六等分、「おじいちゃんもおあがり」「おばあちゃんもおあがり」「お父ちゃんもどうぞ」「お母ちゃんもどうぞ」赤いのは花子ちゃん「白いのはぼく」と、お母さんの手で入れられた熱いお茶といっしょに、お話しあいをしながら…ということになるだろうと思われれます。

というようなかみのことを書き、「さて、あなたのお家ではどうなさるでしょうか」と、問題提起をさせてもらったことを思い出すのです。

## 花まつりご案内

◎四月八日(火)午後一時より

場所 萬徳寺

★どなた様もお子様、お孫様と一緒に  
お気軽にお参り下さい

## 永代経法座のご案内

◎四月十二日(土)

速夜 午後二時(仏説無量寿経)

初夜 午後七時(仏説阿弥陀経)

◎四月十三日(日)

速夜 午後二時(仏説無量寿経)

本願寺布教使  
武田達城師

中央仏教学院講師、吹田市千里山・千里寺住職

当寺には平成二十四年報恩講法座以来のご法縁です。

★年行司(仏壯、総代)の方々によりますお志の受付は、

午後一時十五分(一日目)よりさせていただきます。

お参りの方は宜しくお願い致します。

## 人生講座のご案内

◎六月二十九日(日)午後二時より

場所 萬徳寺 本堂

☆ご法話と音楽のコラボレーション

講師 出口湛龍先生

石井千夏さん(相愛大学 ピアノ科卒)

武田有美子さん(相愛大学 音楽科卒)



3月11日 仏教婦人会 常例法座  
(東日本大震災追悼法要)



1月13日 仏教壮年会 御正忌報恩講参拝

## 住職の ひとり言



◆春四月、日本列島を桜前線が縦断中です。三月下旬から五月上旬にかけて北上を続けます。

◆春はまた永代経の季節です。四月から五月にかけて、多くのお寺で勤められる永代経法要は、秋の報恩講と並ぶ二大仏事行事です。はたして『永代経』とはどういう意味でしょうか。もちろん永代経というお経があるわけではありません。永代経という言葉を分解しますと、永代とは「いつまでも」です。経とは「仏さまの説かれた教え」です。亡くなられた方をご縁として、ご先祖から伝えて頂いた尊い仏法を、永代にわたり、子々孫々にまで伝えていく。そのため仏法聴聞の道場としてのお寺を護持していく。それが真の『永代経』の心です。まず自分自身が仏さまの教えに遇わねばなりません。どうかいつまでもご聴聞を忘れないでください。

◆かけがえのない命と暮らしが奪われた東日本大震災から3月11日で3年が経ちました。増え続ける被災関連死者を合わせると、犠牲者は2万1000人を超えました。地震、津波や福島原発事故で住まいを奪われた約26万人の方々が、今も避難生活**を強いら**れています。いとしい人への追慕、帰郷への願い、支援者への感謝、風化の懸念。さまざまな思いが行き交う中、復興の

道半ばの被災地に3度目の「3月11日」が巡り来ました。私たちは決して忘れてはならないです。

個人情報により非表示にさせていただきます。

誠にお寂しいかぎりですが、どうかこの尊い仏縁を大切にして下さい。亡くなられたお父さま、お母さまはお浄土で仏さまになつて、私たちに明るい家庭を作つてくれよ！お念仏が香る家庭を築いてくれよ！と願つておられます。思うに、人は死んでからの方が人を動かすような気がします。身近な方の死にあたって、自分のありようが考えさせられ、生きるということはどういうことなのかという問いをもらい、そこから聞法が始まることもあります。どうぞ、我が身の生死をじっくり考えてください。

### いつでもどこでもお念仏

腹が立ったらお念仏 いらいらしたらお念仏

うれしいときもお念仏 ど馳走の前でもお念仏

用便、排便のときもお念仏

車を運転しているときもお念仏

念仏なんてそう堅苦しく考えなくてもよいことが、やっとな、少しずつわかってきた

念仏に生かされている私だと思ふようになってきた